



会の告知版

4月21日(日) 東久留米稲門会第8回定時総会 14:00～ 於 成美教育文化会館
講演会 演題「よしなしごとーいのちひとつ」

講師 榎本隆司 早稲田大学名誉教授/東久留米稲門会顧問

4月 7日(日) 東久留米稲門会役員会

[大学・校友会関係]

3月 2日(土) 早稲田大学代議員会

[部会スケジュール]

グルメ部会 2月23日(土) 13:00～15:00 南大泉「すず木」(後述参照)

カラオケ部会 3月 1日(金) 発会式 (詳細別紙参照)

太極拳部会 2月23日(土) 例会 10:30～ 成美教育文化会館

*以後原則毎月第2・第4土曜日 10:00～11:30 同会場で。随時参加可。

書道部会 3月10日(日) 例会 中央公民館

俳句部会 2月24日(日) 例会 中央公民館

3月31日(日) 花見吟行 稲荷山ハイドパーク

囲碁部会 毎月第4日曜日 例会 成美教育文化会館

散策山歩き会 4月 6日(土) 天覧山・多峰主山ハイキング(詳細別途ご案内)

新春にあたり

会長 高橋 勤

今年の新年の話題としたいのは箱根駅伝の事です。早大はここ何年かはシード落ちを繰り返し下位を低迷していましたが、本年度は3位と健闘しました。伝統校早稲田復活の兆しと新聞の見出しに活字が踊っていました。往路3区途中で先頭に立って走っていました。区間最高タイムも4名が出して10区では区間新も記録しました。やはり新年早々のエンジのユニホームの活躍は嬉しいものです。また、ラグビーの活躍も素晴らしいものでした。早大は12年ぶりの大学王座を狙い、5年ぶりの 決勝進出でしたが残念ながら、一歩及ばず関東学院大に負けました。しかし、新年に箱根駅伝とラグビーでの早稲田の活躍は心躍り、嬉しいものです。更なる活躍を期待致します。

年あらたまり東久留米稲門会の会員の皆様のご協力の下活力ある組織作りに努力しなければならぬと思っています。昨年、新規の事業としてスタートしました1)新規部会の増設計画、2)東稲ニュースの隔月の発刊、3)ホームページの立ち上げ、4)東久留米雑学塾の開講、5)ポストマン制度の五つの事業を本年度は着実に継続し、内容の充実を図り実行していくことが目標となります。

本会の活動で基本となるのは部会活動であります。部会の活発化、部員の増強が本会の組織の強化につながるものと信じています。女性サークル部会、山歩き散策部会、ゴルフ部会、俳句部会、囲碁部会、書道部会等、各部会は部員も増加していて素晴らしい活動を展開しています。そのうえ、昨年度(平成13年)は太極拳部会、グルメ部会、郷土研究部会を立ち上げました。今年も麻雀部会カラオケ部会の設立を予定し、それに出来れば蕎麦打ち部会もと思っています。これからの部会活

動は本会の会員のみでなく会員の家族、また部会によっては地域社会の人々の参加も期待したいものです。

昨年9月より隔月に発行しています「東稲ニュース」は会員を対象としたニュース紙です。会と会員、会員と会員の情報の場として、会からの行事のお知らせ、各部会の予定と活動の報告、また大学の最新情報の提供等々、稲門会の情報を会員の皆様にリアルタイムに提供するのが役目です。

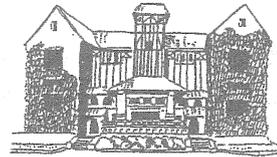
本会の広報の中心に位置するものは、年1回発行する機関紙「杜の西北」です。東久留米市に在住する早大OB約1000名の校友に対しての情報提供の機関紙であります。

本会の広報のもう一つの柱は、現在のIT化時代に相応しい東久留米稲門会のホームページであります。本会の情報を外に向かって発信していく重要な発信手段であります。地域社会との交流をはかり、地域の人々と連携する機会をより多く持てればと思っています。会の行事、部会活動、東久留米雑学塾等の情報を発信することにより地域の人々が気軽に参加して貰えば最高だと思っています。今後ホームページの役割は一層重要で大切なものとなって行きます。これからの活動を期待しています。

東久留米雑学塾は各方面の講師をお招きして隔月に講演会を行います。各講師の専門分野のお話、また一芸に秀でた持ち味の話等々、広く地域社会の人々にも講演の場を提供して、地域社会の文化的な面においても貢献できればと思っています。

以上の事業を柱として本年度の行事を展開して行きたいと考えています。会員皆様のご意見、ご協力をお願い申し上げます。

会の行事



役員・部会長合同忘年会開催

12月2日(日)午後五時半より前沢の「藍屋」で、当会初めての試みである顧問、同好会部会長役員による合同忘年会が開催された。安宅名誉会長、そして当日、当会が主催した東久留米雑学塾で講演を終えたばかりの馬場会員も馳せ参じて総勢29名が参加した。冒頭高橋会長が挨拶、安宅名誉会長発声の乾杯で宴は始まった。話題は当日行われた関東大学ラグビー対抗戦「早稲田対明治」の話に及んだ。折りもおり遅れて出席した呉会員が、早稲田がノーサイド直前のロスタイムに逆転ペナルティゴールを決めて勝利したホットニュースを持ち込んでくれた。一同歓喜の声を上げ、正月の関東学院大との決勝戦に期待を膨らませたものである。

早大応援団員であった大矢会員が来年4月に開校する早実初等部の入学受験状況を披露したあと同会員の指揮の下、全員で校歌を斉唱し、8時散会となった。

2002新年会開かる

新年1月19日、午後6時から、我が稲門会新年会が成美教育文化会館で開催された。参加者は48名。冒頭高橋会長が挨拶に立ち、本年度目標として、東稲ニュース、ホームページ、東久留米雑学塾の継続・拡充発展、同好会部の充実・増設を確実に推進したい旨述べられた。安宅前会長の音頭で会の発展、会員のいやさかを祈念して新年の乾杯をし、宴は始まった。太田蔵之助さんがハッピー姿で余興を演じるなど、場内は和やかな雰囲気の中、差し入れられた銘酒に酔いながらジャンケンゲームを楽しんだ。最後に校歌の大合唱をし、和気藹々のうちに宴を閉じた。(棚野記)

書道部作品展開催、成功裡に終わる

好天に恵まれて12月14日から3日間、書道部全員参加の第一回作品展が中央図書館で開催され、来客者数260名余にのぼる大盛況で無事に終了しました。書道部の皆さん大変におめでとう

ございました。大変にご苦労さまでした。来館者からは異口同音に、4年間の練習結果がこんなにも素晴らしい結実を生むものかと感嘆の声が相次いだと聞いています。

「終わり良ければ全て良し」の言葉もありますが、書道部全員の心意気と気迫と努力が来客の心を打ったのかも知れないし、更に開催に至るまで日夜数々の段取りに奔走された方々のご苦労の凡てが、大成功に導いたに違いないと思っています。何事も陰のご苦労には本当に感謝せざるを得ません。

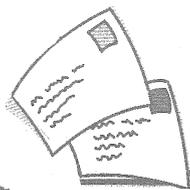
思い返せば三年前の某月某日、いずれ作品展を開催しようとの提案に、私は「何も其処までは」と、考えも及ばなかった展開に反対もし半信半疑でしたが、部会長の書に対する熱意を感じ、重い腰を上げ始めた記憶があります。

「源遠ければ流れ長し」のように、日々の研修、白馬の合宿、富士の合宿などの積み重ねが、作品展への滔々たる流れになったと思います。

荒川さんと私が分担した李白の「江上吟」の句、「功名富貴若長在、漢水亦應西北流」が好きです。人生は名誉、富貴、肩書きなどは問題でない。人間としてどう輝くか、敬愛、人間愛に尽きるのだと、書を通して教えられ、学んだ気がします。今後も作品展を原点とし、ご指導を頂き再出発したいと考えています。

部会長から、楷書は重厚沈着。行書は軽妙含蓄。自由作は自由奔放で見事であり、「継続は力なり、書く事への継続」が大事との評価がありました。(H13. 12. 21 船尾記)

部会便り



グルメ部会

部会長 神田尚計

-手打ちそばで午後のひとときを-

今回は手打ちそばを楽しむ会を企画しました。

保谷駅から約8分。こじんまりとした瀟洒な洋風家屋に小さな看板。おそば屋さんとは気が付かないで通り過ぎてしまいそうなしゃれた店です。

夫婦二人だけで ご主人の手作り創作つまみが センスの良い器にもられ 奥さんの爽やかな笑顔と共に さりげなく供されます。そして 細く香り高い十割蕎麦で締め。酒は新潟のサラリと辛口 松露。

貸し切りですから ゆったりと過ごすことができます。ご家族お誘い合わせのうえどうぞご参加ください。

日 時	平成14年2月23日(土) 午後1時より
会 場	手打ちそば 季彩すず木 練馬区南大泉4-43-32 電話 03-5387-2010
集 合	西部池袋線 保谷駅改札口 午後0時45分 (*東久留米駅12:37 - 保谷駅12:42)
会 費	4,500円(おまかせコース。せいろ2枚付き。飲み物共)
人 数	14名(貸し切り)
申込み	神田まで 電話71-0808

カラオケ部会

部会長 帆角信美

勇躍カラオケ部会の初会合を開催します。東久留米随一の性能を誇るカラオケ装置で初春の夕べを楽しく過ごそうではありませんか。詳細添付別紙案内書をご覧のうえ奮ってご参加下さい。



俳句部会

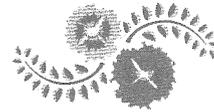
12月9日(日)昼下がり市内中華料理店にて本年最後(通算37回)の句会を忘年会をかねて

開催した。新会員1名を含めて出席者15名。兼題は「北風」と「鍋もの(一切)」、席題は「南天」「千両」「万両」。毎年のことだが、後に宴会を控えていると、俳人ではどうにも気もそぞろで創作に打ち込めない。平常、店が流しているBGMを句会中は止めて貰う一幕もあった。それでも7年の研鑽を経た伝統の東久留米稲門俳句会の部員諸氏。次々と佳句が詠出されたのはさすがと言うほかはない。(出席部員高評価獲得—5点句以上下記)

またぎ宿釣果も入れしきりたんぼ	橘 正治
北風に老いのきざしや足さばき	柵野 愛子
実南天朽ちたる宿に色をそえ	高橋 貞一

句会をひとまず終えて忘年会に入ると、紹興酒が矢継ぎ早に空けられ、予算はたちまちオーバー。それでも、詠み或いは呑み足りない部員達は二次会三次会に暮れの街へ散らばっていった。

新年度最初の句会は2月24日(日)中央公民館にて行います。入会希望者はこの機会にお出で下さい。(比護記)



囲碁部会

この時期、当部会ではイベント、対外活動共に端境期にあたり、特記する事はありません。しかし、それ故に深く静かに囲碁対局に没頭できる貴重な時でもあります。

ここでは、前号でふれた東村山稲門会囲碁部との親善対局が成功裡に終わったこと、また年末(12月23日)の何かとあわただしい中で、8割強の部員が参加し盛大(?)なる忘年会が行われた(於 東久留米駅前「やるき茶屋」)ことを報告しておきます。(辰巳記)

女性サークル部会

年間を通じてみれば、行事の回数はそう多くはない当部会ですが、恒例の通り部員の親睦と忘年を兼ねて会食会を12月8日市内の喫茶店「アコルデ」で行いました。今回は特に、当東久留米稲門会の設立以来会長として昨春までご尽力下さった安宅武一前会長をお招きしました。当部内にかねてからあった安宅さんの労をねぎらい、親しくお話しする機会を持ちたいという希望に快く応じて下さいました。さすがに多方面に亘って社会的経験が豊富で、円満なお人柄の安宅さんを交えてのこの日の歓談はいっそう楽しく有意義でした。

秋 皆で出かけた「ポンペイ展」のこと。現代に至っても「ポンペイ最後の日」という書名が、物の譬えや戒めの言葉として使われているだけに、展示物の数々は未だに心に残っています。

春3月、世話役は交代となりますが、来年度も更に良い企画、楽しい企画を立て活動して行きたいと思います。皆様(時にはご家族も含めて)のご参加ご支援をお願いしたいと思います。

(柵野記)

太極拳部会

昨年9月1日、14名で発足した本部会も5ヶ月が過ぎました。新部員に加え部員の奥様や部員・奥様方の友人・知人と地域との輪を広げ、現在では32名の部員数になりました。(内女性部員15名)。これも偏に船尾部会長・森田師範の熱意ある指導と人徳の賜と部員一同喜んでいきます。

発足当時から稽古会場の確保のために森田師範自ら東奔西走し、市民プラザ・さいわい福祉センター・成美教育文化会館と転々としていましたが、現在では成美教育文化会館に落ち着き月2回(偶数週の土曜日)稽古をしています。熱心な部員からの要望もあり、4月からは従来の偶数週の土曜日に、奇数週の木曜日(但し第5週は休みとする)を加え、月4回の稽古をすることになりました。運動不足の解消・健康維持に大いに役立つことになるでしょう。

楊名時先生の八段錦および108もあつた煩雑な技をまとめた24式太極拳を何とかマスターしようと皆頑張っています。稽古は挨拶に始まり八段錦のうちの前半の四段と24式の通し稽古

と部分稽古および八段錦の後半の六段錦と八段錦を稽古し、挨拶で終わります。部分稽古は24式太極拳を四つづつ6回に分けて稽古・マスターすることになってはいますが、なかなか思うように演舞(?)出来ませんが、それでも皆一所懸命稽古しています。

新年の初稽古(1月12日)で森田師範から、「全員が24式をマスターすることを今年の目標にしましょう」と発破をかけられ、一同更に向上を目指そうと奮い立ちました。

初稽古のあと、3階に会場を移し新年会を開きました。(参加24名、内女性部員9名)。部会長挨拶のあと荒川部員に皆勤賞が授与されました。女性部員の手料理や中国酒、紹興酒、日本酒、ウイスキー、ワイン等々の持ち込みに舌鼓を打ち、アトラクションとして福引きやじゃんけんゲーム等に興じ、最後は校歌斉唱で終わりました。これからの稽古に益々の弾みをつけることになりました。(鮎貝記)

散策山歩き部会

部会長 川上昇一

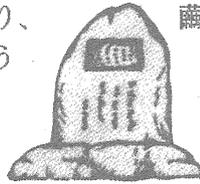
お花見を兼ねて4月6日(土)「天覧山・多峰主山ハイキング」を企画しました。足に自信のない方でも参加頂ける比較的平坦な初級者コースです。詳細は後日別途配布します案内書をご覧ください。ご家族、友人、知人お誘いのうえ、多数ご参加下さい。

郷土研究部会

部会長 高橋哲男

東久留米新春の行事—正月松の内も明け、1月14日は小正月である。全国各地で行われている行事であるが、この日は「まゆ玉」をつくり豊作を祈願する。「まゆ玉」は、米粉を熱湯で丸めてまゆの形や作物の形態にこしらえ檜や檜にさして飾りまゆなどの豊饒を祈った。私の実家でも戦前蚕繭の生産をしており、繭はこの地の主要農産物となっていた。

1月15日は病気にかからないよう
11月の20日は「えびす講」で。
山上げの方がよいというので、赤飯



に、「あずき粥」を作って食べた。1月と
えびす様は稼ぎの神様であり、なんでも沢
や白飯を高盛にしてあげた。

節分はトシトリとも言われ、2月
3日前後家の玄関先に柀や豆殻に焼いた
鯛の頭をさして魔除けとし、大豆を炒り家の内外に「福は内、鬼は外」と言って豆を撒く。「初午」は2月の初午の日の行事としてお稲荷様を祀るもので「オビシャ」とも言われる。各戸の屋敷稲荷に奉納稲荷大明神と墨書した五色の旗を立て、赤飯、油揚、魚などを供える。又地域の稲荷神社ごとに講を作り輪番で飲み食いの行事が行われた。今ではこれらの行事で残っているものは少なくなったが、東久留米の農家はかつて以上のような行事・慣習の中で本格的な春を迎えたものである。

「東久留米七福神」をご存知ですか。次回のテーマに予定しています。

噴水広場

(早大野球部創部100周年に因んで部員であった太田(晴)さんに早大野球部に関わる諸々の話を執筆頂き本号で掲載する予定でしたが、太田さんの意向で駐在経験のある英国での話がテーマとなりました。ご了承下さい。)

「ユーモアの効果」

—チャーチルはなにも隠さなかった—

太田晴之助(当会顧問 32・政経)

昨年、書道展の打ち上げの宴席で、栄田先生と何となく英国人のユーモア性について話が発展しました。英国へ留学されていた先生も同意見でしたが、英国人は会話にスパイスを効かせるため実

に巧みにジョークを駆使しています。40年前初めてロンドンに赴任し実生活を経験したとき、英国人達が日常会話に挿入するジョークを上手に返せなくて苛立ちを感じたものでした。ユーモアとは「歓喜と苦痛が交わしたキスだ」なんて洒落た定義がありますが、苦痛を笑いの中で溶かしてしまうのがユーモアの本質のようです。また「ユーモラスな会話が十分効果を上げるためには、それを発言する人、それを理解する人、それに気付かない人の3人がその場にいた方が良い」(S.ギルド)という皮肉な説もあるようです。赴任当時、苦痛を忘れ、そして気が付かない三人目の男とならないために神経を使ったものでした。

当然のことですが、日本的な駄洒落や落語の「考え落ち」、「まわり落ち」はどのように煮直しても即興性効果を好む英国人には受けず、敢えて言えばY談めいた艶笑落語の小話が幾分受けたようでした。Y談話はいかに国際的な受けの種とはいえ、話し相手、時、場所により使い分けが必要で万能薬にはなり得ません。そこでユーモアセンスでは業界随一と自称する人物にアドバイスを求めたところ、かつての英国首相W.チャーチルの逸話集を読むことを勧められ、英国・フランス小話集をプレゼントされました。

一般に欧米人は大げさな表現で笑いを誘い出すテクニックに秀でているようですが、確かにブルドックに似たこの雄弁家もこの種のテクニックを用いて並みいる内外の政治家や記者を笑わせたようです。その本の一節に、チャーチルが米国を訪問しホワイトハウスに滞在した時のくだりがあります。チャーチルが入浴中にたまたま緊急な事件が起き、大統領秘書官が浴室をノックして「ご入浴中大変恐縮ですが、火急の問題が起きて、. . .」とかなんとか言ったのでしょう。するとチャーチルはなにも隠さぬ全裸姿で顔を出し、いきなり「イギリス首相はアメリカ大統領に何一つ隠し立てするものではありません」と言ったそうです。見事なウィットだと感心しました。現実問題として、如何に友好関係にあったにせよイギリス首相がアメリカ大統領に対し、何一つ隠す物がないということはないでしょうが、ユーモアのオブラートに包んで心意気を示したのは、高度の政治的感覚といえると思いました。残念ですが、日本の政治家ではこのような感覚、手腕はないのではないのでしょうか。

「大げさな表現と笑い」をオブラートに包んで相手に自分の意とするところをほのめかす技術は外国のセールスマンが得意とするものです。化粧品セールスマンが「この化粧品には一つだけ欠点がありましてね」、「あら、どんな点ですか」、「食費が少し余計にかかります」、「まあ、どうして」、「奥様がお綺麗になるものですから、ご主人様が夕食までにキッチンとお帰りになります」。ウィットを解する奥様なら「まさか!」と笑いながらもその化粧品を買ってしまうことになるでしょう。

前述しましたが、ユーモアは万能ではありません。が、言ってみればボクシングのボディブローのようなものでそれ自体は決定的なパンチにはならなくても日頃から楽しいジョークのボディブローを的中させておけば、いざと言う時に役に立ちます。特に家庭円満と若さを保つ秘訣となること間違いありません。

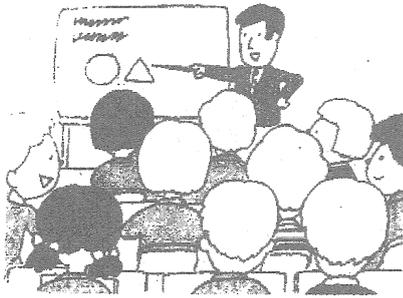
最後に傑作中の傑作と思う小話二題を載せておきます。

- 1) パリのお巡りさんは小粋なことで有名ですが、マドモアゼルの運転する車が渋滞する交差点でエンストをおこし、信号が赤から黄、黄から緑に変わっても一向に動き出しません。パリのお巡査さんは、おもむろに車に近づいて、「お嬢さん、信号にお好みの色がございませんか?」。
- 2) 律儀者の農夫に11番目の子供が授かりました。これ以上子供が増えると生活に支障をきたすので、農夫は村の神父のところへ相談に行きました。「神父さま、いくら追ひ払ってもこのとりが赤ん坊を運んでくるので困り果てています。どうしたらよかんべえか?」
「なにかよい智慧をお願いしますだ」。神父様は暫く考えた後、厳かに言いました。
「空砲を撃つ練習をしなさい」。

おたいくつさま。おあとがよろしいようで。



東久留米雑学塾一講演要約



昨年12月2日(日)市中央公民館で当会主催第二回雑学塾が開催された。講師は当会会員で早稲田大学体育局元講師・元体操部監督の馬場清彦氏。同氏は昭和27年全日本大学体操競技選手権大会に優勝、ヘルシンキ五輪の代表選手に選ばれたが、当時の日本の外貨事情が派遣を許さず、ヘルシンキ行きが幻と消えた無念の思いを経験している。記念品の数々、写真を披露しながら軽妙に話された。(受講者35名)

第二回講演「私のまぼろしのオリンピック」

講師：馬場清彦 (28年・法)

戦前、北京の小学校5年生の時、体育の時間に懸垂をやると、簡単に50回もやり、先生が心配して止める程だった。こんな仲間よりダントツに優れているものを持っているという自信と確信みたいなものを覚えた。戦後日本に引き揚げてきて、北九州の旧制中学校の4年に編入されたが、ここで体操の恩師との運命的な出会いがあり、本格的に体操競技に取り組むことになった。練習を重ねるにつれ、体操の流れの一步先が見えてきて、やがて自分はこの道の天才と思うようになった。スポーツではこれが特に大切で、努力だけでは駄目なところがある。ところがそこにもう一人、超天才が現れた。それが自分の人生のライバルであり友でもある小野喬その人である。彼に負けまいとむちゃくちゃ練習した結果、新制高校の初代チャンピオンになることが出来た。この表彰式の時に、早稲田体操部の大先輩で日本体操協会会長である近藤天さんから「君は早稲田の顔をしている。早稲田に来たまえ」と早大入学を薦められた。ついこれを周囲に漏らしたら、地元の新間に「馬場選手、早稲田受験」とでかでかと報道され、大変追いつめられた気になったが、なんとか法学部に入学できた。

在学中は勉強よりも体操競技に熱中していた。折しも戦後日本が初めて参加するヘルシンキオリンピックの年1952年(昭和27年)を迎えた。一次二次と予選会を経て最終予選で6位となり、オリンピックの代表選手となることができた。勇躍練習に励み最後の合宿に入っていた時、文部省からとんでも無い通達が舞い込んだ。外貨が足りないから全種目に亘って派遣選手を減らせ、と言うのだ。これが6番目の自分に該当してしまった。直前まで練習に励み、後援会もできてお金も集まりはじめた矢先の出来事である。当時は未だ学生だったから、まだまだ後があると思いつめたものだが、その間の世界選手権などの国際試合では快調に行くのに、その後のオリンピックにはどうも波長が合わず、結局今日の演題となった「私のまぼろしのオリンピック」となってしまった。

後にモスクワで開かれたオリンピック、これには西側がボイコットした。今年もベルギーのヘントで世界選手権大会が開かれたが、同時多発テロ事件のあおりで日本は参加を断念した。出場予定選手は皆一様に泣いていた。私も当時の自分を重ね、思わずもらい泣きしてしまった。

世界青年スポーツ友好大会がモスクワで開かれたとき、日中外交に少しばかり役にたったと思う自負がある。日本の全スポーツ団体が新潟港からソ連の大きな客船に乗り込み、ナホトカ経由でシベリア鉄道、当時では珍しいジェット機と乗り継いでモスクワに到着したとき、中国選手団も到着していた。私は北京にいたこともあって中国語がしゃべれたため、中国の選手とすぐに仲良くなった。中国が日本との雪解けを模索していた頃だったためだろうか、大会中お互いのキャンプに選手を呼び合せて親密度は増していた。そんな時、中国側から私に「日本選手団をパーティに招待したい」と話があった。早速団長に伝えると、団長は決断されて両国でパーティを開くことを決めた。パーティの進行役は私が務めることになったが、途中で私の中国語が子供言葉であることに気付き、急遽中国語で「私が子供の頃しか勉強していない中国語では、難しい大人の言葉をしゃべれないことにたった今、気が付いた。ご免なさい」と言うと、皆がどっと笑いそれまでやや固かった雰囲気が一気に和らいだ。それ以後は他の人に進行役を任せましたが、自分の競技生活の中でも特に印象に残る出来事だった。今でも日中親善に少しはお役に立てたと誇りに思っている。

東稲広報室



- * 東久留米稲門会のホームページへのアクセス数は1月末現在、780となっています。
- * ポストマンの一部に変更がありました。滝山地区西村さん担当の一部を鮎貝さんに移行、担当していただくことになりました。ポストマンは総勢13名となりました。
- * 当会年1回刊行の機関紙「杜の西北」第8号が来月発行されます。



- * 早稲田大学は4月、OBのジャーナリスト、田原総一郎、高野孟両氏を客員教授に迎え、討論中心の新しい科目を開講する。授業の前半は、政治経済など各界から毎回招くゲストが講演。後半は田原氏ら教員も加わり、学生と自由に「天下国家」を語り、将来のリーダー育成を目指す。ゲスト予定者は石原行草担当相、宮内義彦オリックス会長らとテレビ並み。(2/5 朝日新聞朝刊)

東稲ニュース・ホームページ編集班よりのお知らせとお願い

「東稲ニュース」「ホームページ」をピリオディカルな情報メディアとして確立するためには、会員各位の継続的寄稿がなくてはなりません。しかしながら、これまで投稿先・投稿ルート等が確立していなかったために、投稿を逡巡された会員もおられたと思います。この度、情報を提供戴くにあたり下記要領を確立いたしましたので、ご理解ご協力をお願い致します。

1. 「東稲ニュース」は毎偶数月の10日に発行されます。「ホームページ」は随時更新します。
2. 当稲門会が関わる一般情報は本部がとりまとめて、編集班に渡します。会員の皆様からの投稿記事(随想を含みます)は、随時、本部事務局に送って下さい。
3. 会の行事などの参加記事は、その都度本部事務局が出席会員に順次依頼します。
4. 同好会情報(部会便り)

○毎奇数月の25日迄に直近2~3ヶ月の活動状況を投稿下さい。字数は出来るだけ500字内に納めて下さい。情報がない場合でも「無し」の連絡をお願いします。

○「ホームページ」掲載用写真の提供もお願いします。「東稲ニュース」にも、漸次とり入れる予定です。

○情報提出(投稿)先:

- ・女性サークル、山歩き散策、ゴルフ、囲碁、俳句部会
→ 菱山房子 (〒203-0011 大門町1-2-3 TEL&FAX:0424-73-5964)
- ・書道、太極拳、グルメ、郷土研究、カラオケ、麻雀部会
→ 河村洋子 (〒203-0032 前沢1-5-27-502 TEL&FAX: 0424-77-3294)

「東稲ニュース」は会員全員による、全員のための、全員参加のニュース紙です。どしどし発信して下さい。本紙はA4・6ページ編集を基本に置いています。紙幅に制限があり、全文掲載できないこと、或いは後続号に後送りすることあり得ます。予めご了解下さるようお願い致します。

ホームページは、随時更新しますので、いつでもホットな情報(投稿)をお寄せ下さい。

【編集後記】 ○新年挨拶で会長も触れているように、恒例の箱根大学駅伝で、母校の奮闘に切齒扼腕した人達は多かったことと思う。「初春やWに湧く東海道」。早大競争部の部長を永年務められた榎本顧問は、早稲田の健闘をかく詠まれた。○そんな駅伝で正月が明けたばかりと思っていたのにもう2月。「光陰矢の如し」と、とある子に教えてやったら、光陰(矢)と新幹線ではどっちが早い?と意表を突かれて戸惑った。どっちにしろ日にちの過ぎ行くのがいやに早く感じられ、編集子にはこれを喜んで良いのか、悲しむべきか分からない。早い方が良いと明確に分かるのは何より景気の回復であり、将来への不安の払拭である。脱線、或いは遠回りをしている若いエネルギーを生産性の高い機会、場所に導く道をいち早く確立したいものだ。